

# かるがも



第25号

発行所 千葉県こども病院  
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1  
TEL 043-292-2111  
FAX 043-292-3815  
<http://www.kodomo.umin.jp/>

## こども・家族支援室の1年間の取り組み



こども・家族支援室 統括者 尾出真理子

地域医療連携室を拡大し、昨年4月から、こども・家族支援室ができました。7月から新たに心理判定員が加わり、10月からチャイルドライフスペシャリストの交代もあり、現室員メンバーとしてようやく半年目を迎えました。今年度の取り組みについて紹介します。まず、地域医療連携室業務においては、従来の病病連携や病診連携を基盤とした地域支援病院としての業務に加え、在宅

移行支援や虐待対応などの退院調整や生活支援を行っています。具体的には、

医療相談 5967件

(療養上の相談 3559件・虐待相談 1746件・その他)

退院調整等関係者会議 45件

関連施設との情報交換会 11件

県民公開講座・登録医対象公開講座・すくすく通信

(登録医対象機関紙発行)

訪問看護ステーション対象研修・教育機関等研修会の開催

等を行いました。(データは2月末現在)

特に今年度は顔の見える関係作りをめざし、特別支援学校との情報交換会や訪問看護ステーションとの交流会、ケース検討会や学習会などを行ってきました。また、はじめての試みとして、あおぞら診療所新松戸の協力を得て、17名の職員が在宅診療(訪問診療)に同行する研修をさせていただきました。病院では見ることができなかった在宅でのお子さんご家族の様子は、リラックスした環境のなかで笑顔のある充実した生活を送られており、在宅移行支援への意欲へと繋がりました。退院調整としては、常時1ヶ月以上の入院患者状況を把握し、病棟内でのケースカンファレンスへの参加やご家族に直接相談を受けるなど、介入困難事例の相談および看護実践も約400事例を経験し、医療者や家族内の様々な調整、社会資源活用に関する情報提供や在宅物品の手配を行っています。

生活支援室業務においては、入院中であっても、「その子らしく」心身ともに成長発達が促進できることをめざしています。チャイルドライフスペシャリストは、こどもが主体的に治療に臨めるように、プリパレーションやセラピューティックプレイ等を行い、きょうだいを含めた



心理支援を行っています。心理判定員は、社会に適応しにくいお子さんの支援や家族の不安を傾聴し、サポートを行っています。

子どもが子どもらしく笑うことは、家族にとっても、医療者にとっても自然に笑みがこぼれます。病院のなかであっても、そのような時間が持てるように多くの機会を作ってきました。ボランティアとして、定例化してきたアニマルセラピーやクリニックラウン活動はその代表ですが、そのほかにも人形劇やロッセの今江選手、ゴルフの青木功プロ、ジェフ市原千葉等々のたくさんの訪問があり、こども病院に入院したからこそ経験できた、素敵な出会いがありました。また、12月からは、入院中のこどものきょうだい預かりボランティアを始めています。



さらに、院内学級との調整を行いながら、長期入院後の復学支援や就学前児の支援としてのニーズ調査を実施し、その第一歩として、院内学級の先生と中学生の協力のもといっしょに自主活動の時間を過ごすことができました。その他、緩和ケアリンクナース会やグリーフケア会、在宅ケア勉強会など多岐にわたった活動をしています。

次年度は、こども・家族支援室を利用していただく方々にたくさんの意見をいただきながら、これらを継続しつつ、こども・家族支援室が担うべき役割を整理し明確にしていきたいと思えます。

